



健康都市宣言の市内一周のパレード(普天間)  
1964(昭和39)年

60年前、宜野湾市では…  
新年、明けましておめでとございませう。2024年が始まりました。  
さて、今から60年前、1964(昭和39)年の宜野湾市の様子を見てみると、この年は、現在の22の行政区ができた、すなわち新行政区が設置された年です。  
自治会によつては、設立の祝賀会を開き、新しい自治会作りを喜び合いました。



また、この年の7月には、宜野湾市で健康都市が宣言されました。当時は戦後19年が経ち、復興の最中、交通事故や都市化に伴う環境衛生の悪化、青少年の不良化などが増えていたため、市民生活を脅かす状況を払拭し、市民の健康、都市の健康を図り、明るく、美しい住み良い都市づくりを求めました。

健康都市宣言が行われた7月1日には、「誓いの響き」として普天間の消防庁舎屋上のサイレンを7連呼させ、ヘリコプターで健康都市宣言のピラが撒かれまし。その後、60台余りの車を連ねて市内パレードが行われました。

この健康都市の宣言にうたわれたように、今年も市民の皆さまが明るく、健やかで過ごせますよう、祈念いたします。



普天間のマリン音楽隊も参加してパレードを盛り上げた

【問合せ】市立博物館 ☎ 870-9317



昨年度、喜友名グスクの試掘調査が行われました。今回はその結果を少しだけ紹介します。

喜友名グスクは、宜野湾市の字喜友名にあり、県道81号線沿いの西普天間住宅地区跡地内に位置します。北谷グスクと戦ったという言い伝えもあり、終戦直後までは敷地内にグスクヤマと呼ばれる岩山があり、拝所や石垣もあつたそうです。

しかし、現在グスクヤマがあつた場所は5mほど削り取られて平らになっており、グスク内にあつたとされる拝所や石垣も確認できない状況となっています。

試掘調査の概要



作業風景

喜友名グスクの試掘調査では20箇所の試掘を行いました。残念ながら、調査したほとんどの場所は米軍基地の造成により岩盤まで削られて跡形もありませんでした。

ただ、少しだけですが、グスクやそれ以前にあつた喜友名貝塚の遺物が確認されています。試掘坑のひとつからは、岩盤の隙間に残ったグスク時代の土から青磁の底部が出土しています。また、別の試掘坑では伊波式・荻堂式と呼ばれる3千年前の土器や、貝、海獣骨、魚骨などの人が食べたと思われる遺物やサメの歯の垂飾品などが出土しました。特にサメの歯は大きく、現在は絶滅しているメガロドンのような大型のサメの歯の化石ではないかと考えられます。また、サメの歯は上部に穴があけられており、紐を通して使用した可能性があります。このように、今はまだ明確なグスクの痕跡は確認されていませんが、大昔から人々が暮らしていた痕跡が残る遺跡となつています。以上が去年の調査で得られた成果の一部となります。喜友名グスクの調査はこれからも続きますので、今後新たな発見が期待されます。



サメの歯化石

度から令和5年度までに宜野湾市で行われた文化財調査について展示を行いますので、是非見に来てください。

【問合せ】文化課 ☎ 893-4430